記者発表資料

令 和 2 年 7 月 1 日
国土交通省東北地方整備局

令和元年東北地方一級河川の水質現況を発表

東北では２河川が「水質が最も良好な河川」となりました！

令和元年(1～12 月)の東北地方一級河川 12 水系における水質調査結果をとりまとめましたので、お知らせします。

◎阿武隈川水系荒川が１０年連続、最上川水系鮭川が３年連続で「水質が最も良好な河川」となりました。

◎「生活環境の保全に関する環境基準」のうち、水質汚濁の代表的な指標である BOD または COD の満足状況は、12 水系中 7 水系の「100%」の調査地点で満足する結果となる。

◎「人の健康の保護に関する環境基準」の満足状況は、2 地点で基準値を超過（自然由来と推測）

◎住民参加による水質調査も実施。「今後の河川水質管理指標による調査」「水生生物による簡易水質調査」の両調査で、合わせて「927 人、23 団体」に参加していただき調査を実施。

◎ダイオキシン類実態調査、内分泌かく乱物質実態調査の結果、いずれも基準値を満足

◎ 水質事故は 213 件発生。原因は油流出が 9 割。家庭で灯油タンクから小分け中にその場を離れるなどの不注意によるものが多い。

◎【コラム】最上川　～最上峡における水環境保全の取り組み～

※本資料は東北地方整備局ホームページ内で掲載しています。
http://www.thr.mlit.go.jp/bumon/b00037/k00290/river-hp/kasen/plaza/jiko/suisitu_top/index_suisitu_top.html

※国土交通本省ホームページ内で、「全国版の水質現況」及び「各地点調査結果を含む詳細版」を掲載しています。
http://www.mlit.go.jp/river/toukei_chousa/kankyo/kankyou/suisitu/r1_suisitu.html

＜発表記者会＞青森県政記者会、岩手県政記者クラブ、秋田県政記者会、宮城県政記者会、山形県政記者クラブ、福島県政記者クラブ、東北電力記者会、東北専門記者会

［本件に対するお問い合わせ先］
国土交通省 東北地方整備局 河川部 河川環境課
課　　長　齋藤　茂則（内線 ３６５１）
課長補佐　安倍　浩哉（内線 ３６５６）
仙台市青葉区本町３－３－１　仙台合同庁舎Ｂ棟
℡ 022-225-2171（代）　FAX 022-215-3754

令和元年

東北地方
一級河川の水質現況



Recent condition of water quality of class A river in Tohoku

2019

1. 主要河川の地点別年平均水質
2. 生活環境の保全に関する環境基準の満足状況
3. 人の健康の保護に関する環境基準の満足状況
4. 住民参加による水質調査
5. ダイオキシン類実態調査結果
6. 内分泌かく乱物質実態調査結果
7. 水質事故等の発生状況

コラム

最上川

～最上峡における水環境保全の取り組み～

令和元年東北地方一級河川の水質現況

CONTENTS

１．主要河川の地点別年平均水質 …… 01

２．生活環境の保全に関する環境基準の満足状況 …… 02

３．人の健康の保護に関する環境基準の満足状況 …… 03

４．住民参加による水質調査 …… 04

　１）今後の河川水質管理指標による調査 …… 04

　２）水生生物による簡易水質調査（水生生物調査） …… 08

５．ダイオキシン類実態調査結果 …… 09

６．内分泌かく乱物質実態調査結果 …… 09

７．水質事故等の発生状況 …… 10

コラム

最上川

～最上峡における水環境保全の取り組み～ …… 12

（参考資料）各調査地点（ＢＯＤ・ＣＯＤ）調査結果及び満足状況 …… 15

１．主要河川の地点別年平均水質

令和元年水質調査結果

・　阿武隈川水系荒川が１０年連続、最上川水系鮭川が３年連続で「平均的な水質（BOD 値）が最も良好な河川※」となりました。

令和元年の東北地方 20 河川の地点別年平均値

（単位：mg/ℓ）

水系名	河川名	河川全体BOD平均値	調査地点		各地点のBOD年平均値
			地点数	府県名	
阿武隈川	阿武隈川（あぶくまがわ）	1.7	7	宮城 福島	須賀川 1.2 阿久津 1.4 高田橋 2.5 黒岩 1.8 伏黒 1.6 丸森 2.2 岩沼 1.5
阿武隈川	荒川（あらかわ）	0.5	2	福島	荒川橋 <0.5 信夫橋 0.5
名取川	名取川（なとりがわ）	0.8	2	宮城	名取橋 0.8 閖上大橋 0.7
鳴瀬川	鳴瀬川（なるせがわ）	1.0	4	宮城	三本木 1.1 下中ノ目 0.8 南郷 0.9 小野 1.1
鳴瀬川	吉田川（よしだがわ）	1.3	2	宮城	落合 1.2 鹿島台 1.4
北上川	北上川（きたかみがわ）	1.1	16	岩手 宮城	船田橋 0.8 四十四田橋 0.9 南大橋 0.9 紫波橋 1.4 朝日橋 1.3 昭和橋 1.3 珊瑚橋 1.3 金ヶ崎橋 1.2 藤橋 1.3 狐禅寺 1.2 北上大橋 1.1 北上川橋 1.1 大泉 0.9 登米 0.8 飯野川 0.8 飯野川橋 0.7
北上川	旧北上川（きゅうきたかみがわ）	0.8	3	宮城	和渕 0.9 鹿又 0.8 門脇 0.8
北上川	江合川（えあいがわ）	0.8	4	宮城	轟 0.5 荒雄 0.9 短台 1.0 大深沢 0.6
北上川	和賀川（わがかわ）	0.8	3	岩手	山室橋 0.6 九年橋 1.0　切留 0.7
北上川	猿ヶ石川（さるがいしかわ）	0.9	3	岩手	落合橋 0.6 安野橋 1.2　谷内 0.8
北上川	胆沢川（いさわがわ）	0.7	3	岩手	再巡橋 1.0 下嵐江 0.5 望み大橋 0.6
馬淵川	馬淵川（まべちがわ）	1.0	3	青森	櫛引橋 0.8 尻内橋 1.0 大橋 1.2
岩木川	岩木川（いわきがわ）	1.5	12	青森	上岩木橋 0.7 安東橋 0.6 幡龍橋 1.3 鶴寿橋 2.2 乾橋 2.0 三好橋 1.6 神田橋 1.4 津軽大橋 1.5 十三湖大橋 1.4 十三湖中央 1.3 山田川河口 2.4 鳥谷川河口 1.1
米代川	米代川（よねしろがわ）	0.8	5	秋田	十二所 0.8 新真中橋(真中橋) 0.7 鷹巣 0.8 二ツ井 0.8 能代 0.8
雄物川	雄物川（おものがわ）	0.7	5	秋田	酒蒔橋 0.5 雄物川橋 0.7 大曲橋 0.9 岳見橋 0.7 椿川 0.8
雄物川	玉川（たまがわ）	0.6	2	秋田	長野 0.6 玉川橋 0.6
子吉川	子吉川（こよしがわ）	0.7	2	秋田	宮内 0.7 本荘大橋 0.6
最上川	最上川（もがみがわ）	0.8	8	山形	糠野目 1.0 長井橋(小出) 0.9 谷地橋（下野） 0.7 碁点橋（稲下）0.9 堀内 0.8 高屋 0.6 砂越 0.7 両羽橋 0.7
最上川	鮭川（さけがわ）	0.5	2	山形	八千代橋 0.5 戸沢橋 0.5
赤川	赤川（あかがわ）	0.6	3	山形	東橋 0.5 蛾眉橋(横山) 0.6 新川橋(浜中) 0.7

表中のくは、定量下限値であることを示す。

※「平均的な水質が最も良好な河川」とは、以下の条件を満たす河川のうち、各調査地点の BOD 年平均値の平均が 0.5mg/ℓ（環境省の定める BOD の報告下限値）である河川としている。
・一級河川（本川）：直轄管理区間に調査地点が２以上ある河川
・一級河川（支川）：直轄管理区間延長が概ね 10km 以上、かつ直轄管理区間に調査地点が２以上ある河川

２．生活環境の保全に関する環境基準の満足状況

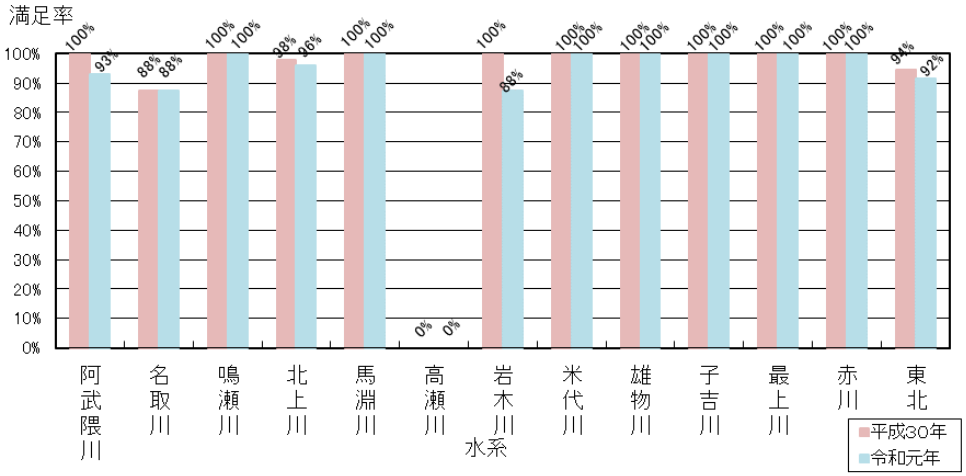
令和元年水質調査結果

生活環境を保全するうえで維持することが望ましい基準（環境基準）として定められている項目について水質調査を実施しています。

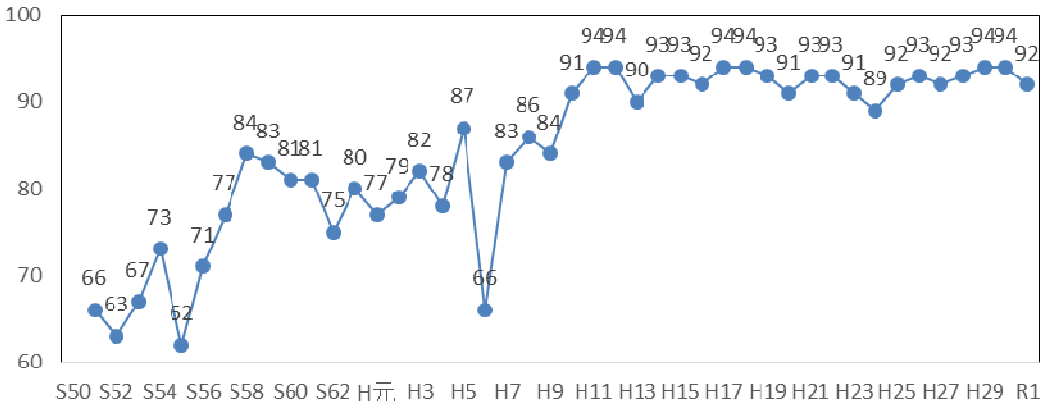
生活環境の保全に関する環境基準の調査項目	
ｐｈ（水素イオン濃度）	ｎ-ヘキサン抽出物質
ＢＯＤ（生物化学的酸素要求量）	総窒素
ＣＯＤ（化学的酸素要求量）	総リン
ＳＳ（浮遊物質量）	全亜鉛
ＤＯ（溶存酸素量）	ノニルフェノール
大腸菌群数	ＬＡＳ（直鎖ｱﾙｷﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝｽﾙﾎﾝ酸及びその塩）
	低層ＤＯ（溶存酸素量）

上記の水質調査項目のうち、水質有機汚濁の代表的な指標であるＢＯＤ値又はＣＯＤ値が環境基準値を満足した地点の状況は、１２水系中７水系で「１００％」の調査地点で満足する結果となっています。

（※高瀬川は、湖沼での調査地点が多いが、全国的にも湖沼の満足率は 39%と低い数値となっている）



ＢＯＤ値又はＣＯＤ値の満足状況の経年変化（東北地方整備局管内全調査地点）



※１　「環境基準」は、川の一定の区間及びダム・湖沼で、望ましい水質の目標を定めた値で、川の一定区間毎に類型が指定されており、その類型毎に基準値が定められております。
一般に河川ではＢＯＤ７５％値、ダム・湖沼ではＣＯＤ７５％値で判断します。

３．人の健康の保護に関する環境基準の満足状況

令和元年水質調査結果

人の健康の保護するうえでの基準（環境基準）として定められている項目について水質調査を実施しています。【２７項目】

人の健康の保護に関する環境基準の調査項目	
カドミウム	１，１，１－トリクロロエタン
全シアン	１，１，２－トリクロロエタン
鉛	トリクロロエチレン
六価クロム	テトラクロロエチレン
砒素	１，３－ジクロロプロペン
総水銀	チウラム
アルキル水銀	シマジン
ＰＣＢ	チオベンカルブ
ジクロロメタン	ベンゼン
四塩化炭素	セレン
１，２－ジクロロエタン	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素
１，１－ジクロロエチレン	ふっ素
シス－１，２－ジクロロエチレン	ほう素
	１，４－ジオキサン

上記の水質調査項目のうち、環境基準を満足できなかった調査地点及び項目は以下のとおりです。なお、自然由来によるものが原因と推定されています。

超過項目	地点名			最大値	年間平均値	環境基準値（年間平均値）	原因
	水系名	河川名	地点名	(mg／L)	(mg／L)	(mg／L)	
砒素	北上川	江合川	大深沢	0.032	**0.020**	0.010以下	自然由来
	北上川	小鬼ヶ瀬川	天子森	0.035	**0.012**		自然由来
ほう素	北上川	江合川	大深沢	1.06	**1.06**	1.0 以下	自然由来

４．住民参加による水質調査

１）今後の河川水質管理指標による調査

河川をＢＯＤだけでなく多様な視点で評価する今後の河川水質指標による調査を、平成 17 年から実施しています。

この背景には、一級河川のＢＯＤ（またはＣＯＤ）値が環境基準値を満足している割合が 9 割に達し、水質改善が進む一方で、水質改善に伴い、人々が河川とふれあう機会が増え、河川の多様な生態系に対する関心が高まっているため、ＢＯＤだけでなく多様な視点で河川を捉えることが求められていることがあります。

調査内容には、住民等にご協力していただき評価していただく項目が含まれており、河川管理者だけでない、住民参加型の調査となっています。（ゴミの量、透視度、川底の感触、水の臭い、生物の生息）

令和元年度の調査への住民等参加は、８水系１７地点において、小中学生等の延べ６５８人、２１団体の参加を得て調査を実施しました。

（※水生生物による簡易水質調査参加人数との重複あり）

今後の河川水質管理の指標【４つの評価項目】（赤字が住民による評価項目）

① 「人と河川の豊かなふれあいの確保」
　水質に関係する分かりやすい指標（ゴミの量、透視度、川底の感触、水の臭い、糞便性大腸菌群数）により評価

② 「豊かな生態系の確保」
　水生生物の生息・生育・繁殖に関係する指標（呼吸に支障が無いこと（DO）、毒性が無いこと（NH4-N）、生物が生息していること）により評価
（※HH4-N=アンモニウム態窒素：し尿や家庭下水中の有機物の分解に起因する）

③ 「利用しやすい水質の確保」
　上水利用・農業用水・工業用水・水産用水の利用に関係する指標（ﾄﾘﾊﾛﾒﾀﾝ生成能、2-MIB、ジオスミン、NH4-N）により評価

④ 「下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保」
　下流部の富栄養化や閉鎖性水域（ダム・湖沼・湾）の富栄養化への影響に関係する指標（T-N、T-P）により評価

①『人と河川の豊かなふれあいの確保』の調査結果

年間評価ランク	地点数	河川名/地点名
A	1	最上川水系　最上川/白川合流点
B	9	岩木川水系　岩木川/弘前水辺プラザ 最上川水系　最上川/本合海 丹生川/丹生川大橋 金山川/水辺の学校 鮭川　/戸沢橋 北上川水系　中津川/中の橋下流 磐井川/下之橋下流 内ノ原川/水車橋 雄物川水系　雄物川/今泉橋下流
C	4	最上川水系　最上川/平柳橋下流 北上川水系　広瀬川/桜木橋上流 北上川水系　江合川/桜の目橋 阿武隈川水系　阿武隈川/天神
D	1	鳴瀬川水系　吉田川/高田橋
合計	１５	

※地点評価は、最も低いランクとし、年間の地点評価とも、最頻ランク（最頻ランクが２つ以上の場合は低い方）としている。

住民との協働項目

ランク	説明	ランクのイメージ	評価項目と評価レベル※1) ゴミの量	透視度（cm）	川底の感触 ※3,4)	水のにおい	糞便性大腸菌群数（個/100mℓ）
A	顔を川の水につけやすい		川の中や水際にゴミは見あたらないまたは、ゴミはあるが全く気にならない	100以上 ※2)	不快感がない	不快でない	100 以下
B	川の中に入って遊びやすい		川の中や水際にゴミは目につくが、我慢できる	70以上	ところどころヌルヌルしているが、不快でない		1000 以下
C	川の中には入れないが、川に近づくことができる		川の中や水際にゴミがあって不快である	30以上	ヌルヌルしており不快である	水に鼻を近づけて不快な臭いを感じる 風下の水際に立つと不快な臭いを感じる	1000 を超えるもの
D	川の水に魅力がなく、川に近づきにくい		川の中や水際にゴミがあってとても不快である	30未満		風下の水際に立つと、とても不快な臭いを感じる	

※１　評価レベルについては、河川の状況や住民の感じ方によって異なるため、必要に応じて住民による感覚調査等を実施し、設定することとする。

※２　実際には100cmを超える水質レベルを設定すべきであり、今後の測定方法の開発が望まれる。

※３　川底の感触とは、河床の礫に付着した有機物や藻類によるヌルヌル感を対象とする。そのため、川底の感触は、ダム貯水池、湖沼、堰の湛水域には適用しない。

※４　感触の「不快感」については、各々以下のイメージである
A:素足で入りたいと感じる B:履物があれば入りたいと感じる C:履物をはいても入りたくない

②『豊かな生態系の確保』の調査結果

年間評価ランク	地点数	河川名/地点名
A	１３	岩木川水系　岩木川/弘前水辺プラザ 最上川水系　最上川/白川合流点 金山川/水辺の楽校 丹生川/丹生川大橋 米代川水系　米代川/北秋田市栄地内 米代川/能代市二ツ井大橋 北上川水系　中津川/中の橋下流 磐井川/下之橋下流 江合川/桜の目橋 内ノ原川/水車橋 広瀬川/桜木橋上流 子吉川水系　子吉川/西滝沢水辺プラザ 雄物川水系　雄物川/今泉橋下流
B	３	阿武隈川水系　阿武隈川/天神 北上川水系　北上川/江崎大橋上流 鳴瀬川水系　吉田川/高田橋
C	０	
D	０	
合計	１６	

住民との協働項目

ランク	説明	評価項目と評価レベル		
		DO(mg/ℓ)*1)	NH_4-N(mg/ℓ)*2)	水生生物の生息*3)
A	生物の生息・生育・繁殖環境として非常に良好	7 以上	0.2 以下	Ⅰ. きれいな水 ・カワゲラ ・ナガレトビケラ等
B	生物の生息・生育・繁殖環境として良好	5 以上	0.5 以下	Ⅱ. 少しきたない水 ・コガタシマトビケラ ・オオシマトビケラ等
C	生物の生息・生育・繁殖環境として良好とは言えない	3 以上	2.0 以下	Ⅲ.きたない水 ・ミズムシ ・ミズカマキリ等
D	生物が生息・生育・繁殖しにくい	3 未満	2.0 を超えるもの	Ⅳ. 大変きたない水 ・セスジユスリカ ・チョウバエ等

※１　「ＤＯ」：溶存酸素。水生生物が生きていくうえで不可欠な水中の酸素量。

※２　「NH4-N」：アンモニウム態窒素。水生生物に影響を与える毒性を評価する指標。

※３　水生生物の生息は流れのある瀬で調査を実施する。そのため、水生生物の生息はダム貯水池、湖沼、堰の湛水域には適用しない。

※地点評価及び年間の地点評価とも、最も低いランクとしている。

③『人と湖沼の豊かなふれあいの確保』の調査結果

年間評価ランク	地点数	河川名/地点名
A	1	阿武隈川水系摺上川　摺上川ダム
B	0	
C	0	
D	0	
合計	1	

住民との協働項目

ランク	説明	ランクのイメージ	評価項目と評価レベル※1)					
			ゴミの量	透視度（cm）	湖底の感触	水のにおい		糞便性大腸菌群数（個/100mℓ）
A	顔を湖沼の水につけやすい		湖沼の中や水際にゴミは見あたらないまたは、ゴミはあるが全く気にならない	50以上	不快感がない	不快でない	アオコは確認できない	100以下
B	湖沼の中に入って遊びやすい		湖沼の中や水際にゴミは目につくが、我慢できる	25以上	ところどころヌルヌルしているが、不快でない		肉眼では水面にアオコが確認できないが、水をくんで肉眼でみるとよく確認でいる	1000以下
C	湖沼の中には入れないが、湖沼に近づくことができる		湖沼の中や水際にゴミがあって不快である	25未満	不快である	水に鼻を近づけて不快なにおいを感じる	アオコがうっすらと筋状に発生していて、水面にわずかに散らばり肉眼で確認できる	1000を超えるもの
D	湖沼の水に魅力がなく、湖沼に近づきにくい		湖沼の中や水際にゴミがあってとても不快である			水に鼻を近づけてとても不快なにおい臭いを感じる	アオコが湖面や湖岸の表面を広く覆い、かたまりもできている	

※1　評価レベルについては、河川の状況や住民の感じ方によって異なるため、必要に応じて住民による感覚調査等を実施し、設定することとする。

２）水生生物による簡易水質調査（水生生物調査）

水生生物は水質汚濁の長期的・複合的な影響を反映していると考えられており、これら水生生物の種類や数を調べることで、大まかな河川の水質状況を評価できます。

人間活動による河川への汚濁の影響を受け、水生生物がどのように変化するかという視点から行われた研究を基礎としています。

各水質階級を判断するための指標生物を設定しており、この生物により水質が判断されます。

また、多数の地域の住民（小中学校等）に参加して頂き、河川愛護の必要性を認識していただく良い機会にもなっています。

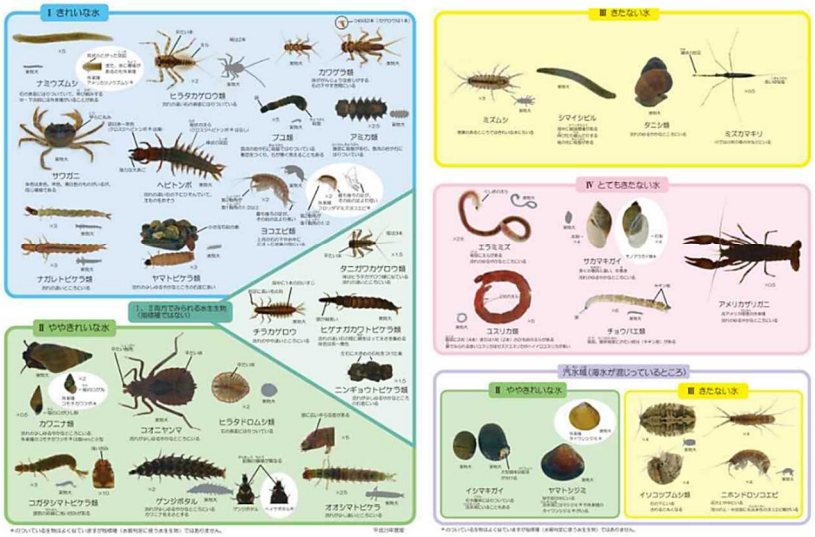
令和元年度の調査への住民等参加は、１０水系２６地点において、小中学生等の延べ９２７人、２３団体の参加を得て調査を実施しました。

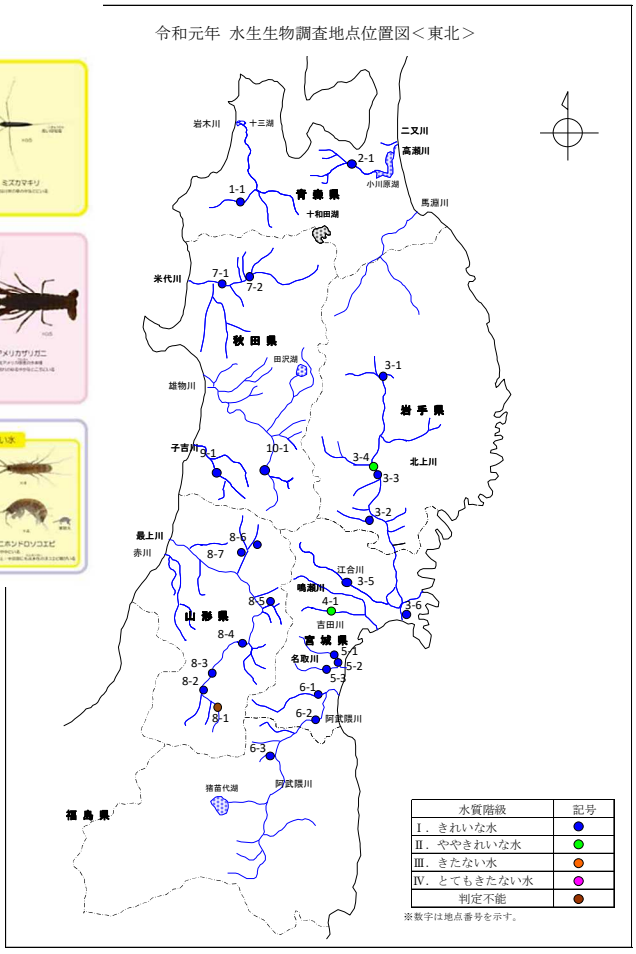
（※今後の河川水質管理指標による調査参加人数との重複あり）

【指標生物について】

①全国的に見つけることができ、ある程度の数がいて、夏の期間は必ずいる種。
②誰にでも見つけることができ、似ている種が少なく、区別が簡単。
③水の汚れ（有機物濃度）に対しては生息する幅が狭い生物。
④水深の浅いところ（水深 30cm 以下）に生息している生物。

水質階級と指標生物





水系名	河川名	地点番号	地点名
岩木川	岩木川	1-1	水辺プラザ（和田町）
高瀬川	高瀬川	2-1	新川原橋
北上川	中津川	3-1	中の橋下流
北上川	磐井川	3-2	下之橋下流
北上川	広瀬川	3-3	桜木橋上流
北上川	広瀬川	3-3	桜木橋上流
北上川	北上川	3-4	江崎大橋上流
北上川	中津川	3-1	中の橋下流
名取川	広瀬川	5-1	JR広瀬川鉄道橋
名取川	広瀬川	5-2	八本松
名取川	名取川	5-3	JR名取川鉄道橋
北上川	江合川	3-5	桜の目橋
鳴瀬川	吉田川	4-1	高田橋
北上川	内の原川	3-6	水車橋
阿武隈川	白石川	6-1	白幡橋
阿武隈川	阿武隈川	6-2	丸森橋
米代川	米代川	7-1	二ツ井大橋
米代川	米代川	7-2	北秋田市栄地内
子吉川	子吉川	9-1	西滝沢水辺プラザ
雄物川	雄物川	10-1	今泉橋下流
最上川	最上川	8-1	平柳橋下流
最上川	最上川	8-2	白川合流点
最上川	最上川	8-3	睦橋
最上川	最上川	8-4	長崎
最上川	丹生川	8-5	丹生川大橋
最上川	丹生川	8-5	丹生川大橋
最上川	鮭川	8-7	観音寺橋
最上川	金山川	8-6	水辺の学校
阿武隈川	荒川	6-3	桜づつみ公園

５．ダイオキシン類実態調査結果

ダイオキシン類とは、ダイオキシン類対策特別措置法に定義されている３種の化合物群です。毒性が強く、焼却、農薬等の製造、パルプの塩素漂白などで意図せずに生成され残留性が高い物質です。

令和元年度に実施したダイオキシン類の実態調査では、**いずれの地点においても水質・底質の環境基準（水質：1pg-TEQ/ℓ 底質：150pg-TEQ/g）を満足**しました。

ダイオキシン類（※1）については、平成 11 年度から管内 12 水系 54 地点において継続的に水質と底質の調査を実施しており、令和元年度は 12 水系 25 地点において調査を実施しました。水質・底質ともに、年間の評価値では全地点で環境基準を満足しております。

調査結果の概要

	調査地点数	要監視濃度※2を超えた地点数	環境基準値を超えた地点数
水質	25 地点	0 地点	0 地点
底質	25 地点	0 地点	0 地点

※1… ダイオキシン類対策特別措置法に定義される『ポリ塩化ジベンゾーパラージオキシン』『ポリ塩化ジベンゾフラン』『ダイオキシン様塩化ビフェニル』の 3 種の化合物群。非意図的に生成され、毒性が非常に強く、残留性が高い物質。

※2… 国土交通省が重点的に監視する際の目安として定めている濃度で、環境基準値の 1／2。要監視濃度を超えた地点については、その後の調査で 8 回連続して要監視濃度を下回るまで、重点監視地点として年 4 回の調査（通常の調査地点は年 1 回）を実施する。

６．内分泌かく乱物質実態調査結果

内分泌かく乱化学物質調査とは、内分泌系に影響を及ぼすことにより、生体に障害や有害な影響を引き起こす外因性の化学物質です。

令和元年度に実施した内分泌かく乱物質の実態調査では、**すべての地点で重点調査濃度（※2）を満足**しました。

内分泌かく乱物質（※1）については、平成 10 年度（一部項目については平成 12 年度）より管内 12 水系 13 地点において調査を実施しており、令和元年度は 6 水系 6 地点において 3 項目について調査を実施しました。（調査河川：馬淵川、米代川、最上川、赤川、阿武隈川、鳴瀬川）

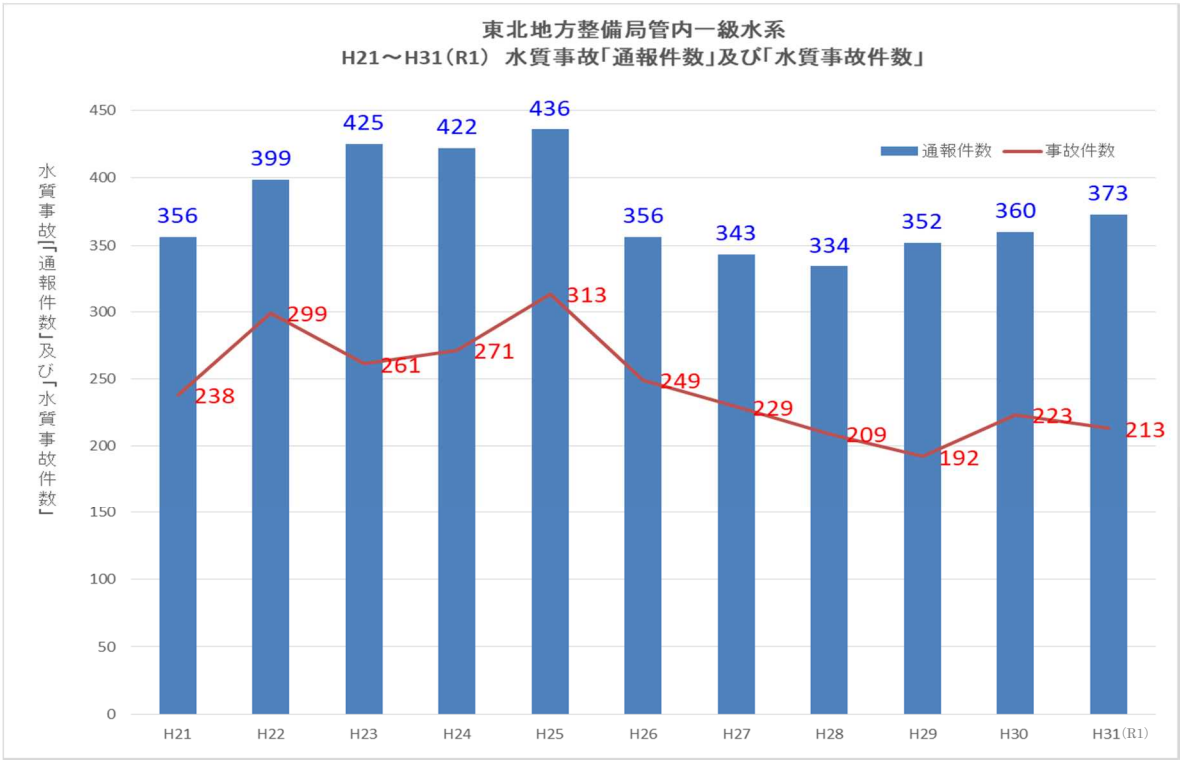
※1… 内分泌系に影響を及ぼすことにより、生体に障害や有害な影響を引き起こす外因性の化学物質。

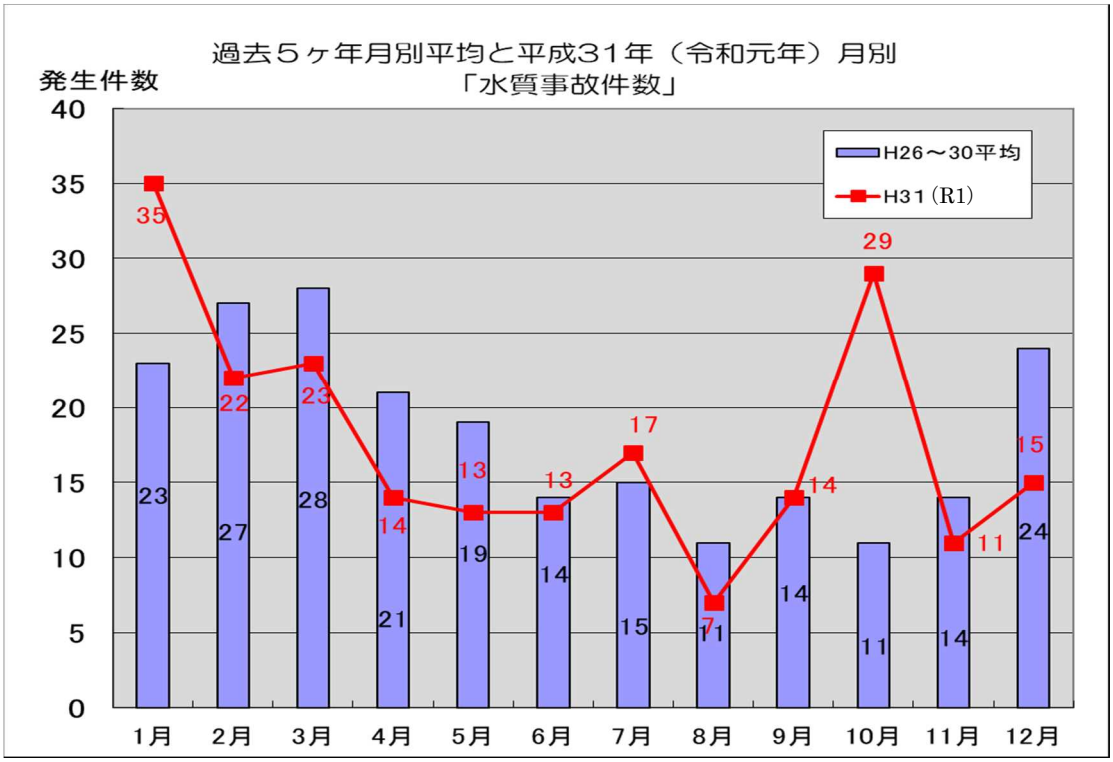
※2… 国土交通省が重点的に調査を実施する際の目安として物質ごとに定めた濃度。各項目によってその濃度は異なり、定めていない項目もある。重点調査濃度を超過した項目については、年 1 回の調査を継続的に実施する。重点調査濃度を 3 年連続して下回った場合は、重点調査地点を解除し、一般調査地点として 6 年に 1 回監視を行う。

7．水質事故等の発生状況

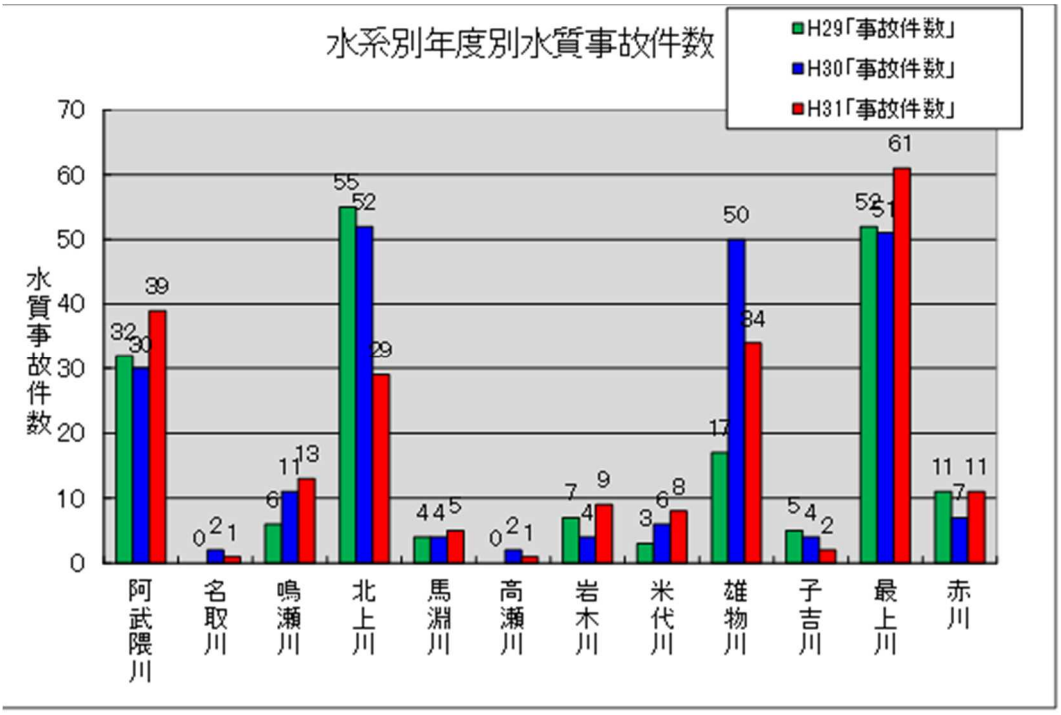
令和元年の東北地方整備局管内での**水質事故「通報件数」は 373 件**、内、公共用水域まで流出した**「水質事故件数」は、213 件**。**迅速な対応に**より通報のあったものの半数以上が水質事故に至らずに処理されている状況です。

各水系毎に関係機関（国、県、市町村、消防、警察、水道部局等）による水質汚濁対策連絡協議会を設立し、水質事故対応にあたっています。





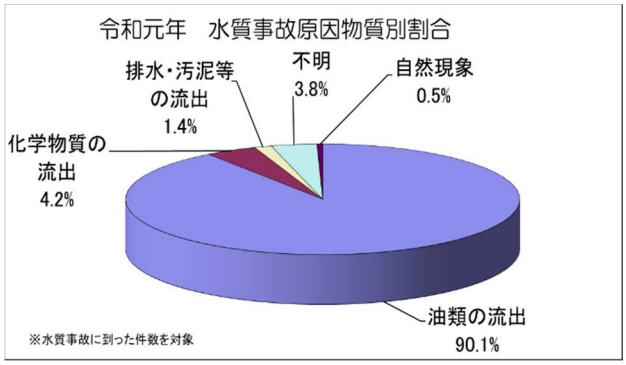
水系別では、北上川、最上川、阿武隈川、雄物川の水質事故が多い。

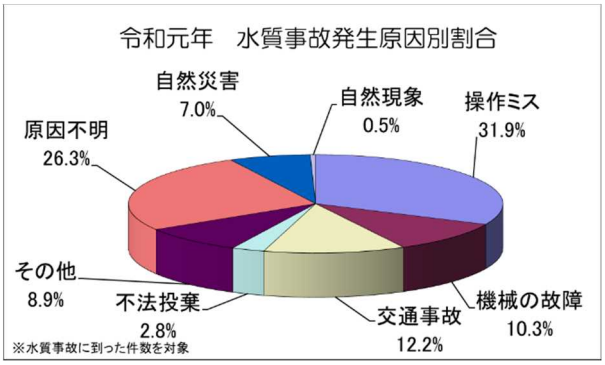


水質事故の原因は約９割が油の流出によるもの。家庭で灯油タンクから小分け中にその場を離れるなどの、不注意によるものが多い。









コラム

「　最上川　－　最上峡における水環境保全の取り組み　－　」

１．最上川流域の概要

最上川は、その源を山形・福島県境の西吾妻山（標高２，０３５ｍ）に発し、山形県の主要な都市を経由して県の中央部を南からほぼ北に流れ、新庄市付近で西へ方向を変え、最上峡を抜けて庄内平野に至り、酒田市で日本海に注ぐ流路延長２２９ｋｍ、流域面積７，０４０㎢の一級河川です。

流域は、山形県土面積の約８割、流域人口は、県人口の約８割を占める約９２万人と山形県の社会・経済・文化の基盤をなしています。

２．最上川の「高屋地点」の水質

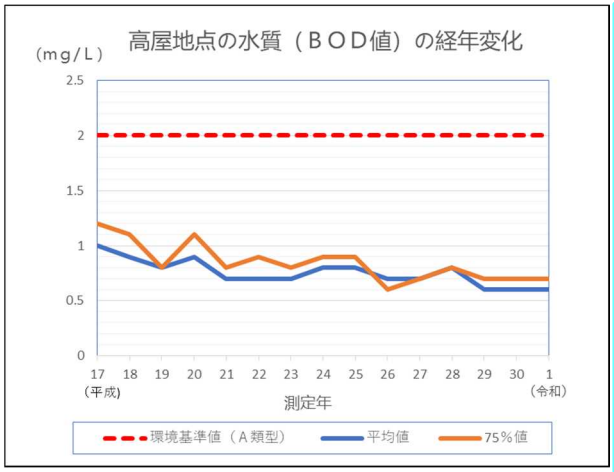
広き野を　ながれゆけども　最上川　うみに入るまで　にごらざりけり

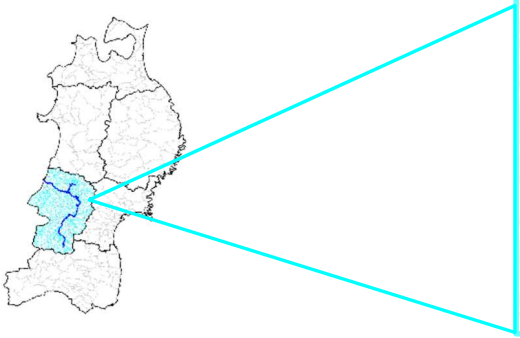
これは「山形県民の歌」に歌われている最上川です。きれいな川であり続けることが県民から期待されている！そんな気がしませんか。

最上川は上流、中流、下流とも、環境基準類型指定水域はＡ類型となっています。実際の水質は水質調査の結果により確認することになりますが、参考までに、観光地「最上峡」内にあり、また、次の章でご紹介する河川清掃活動場所から約２ｋｍ下流に位置する「高屋」地点の水質を下のグラフに例示します。ただし、河川清掃との直接の関係はないので、あくまでも参考までにですが。

「高屋」地点は、水質有機汚濁の代表的な指標であるＢＯＤ値の環境基準値がＡ類型の２mg/Ｌとなっています。高屋地点の近年の水質調査の結果は、ＢＯＤ値及びＢＯＤ75%値とも環境基準値を満足する状況となっており、比較的良好な水質を維持しています。

【ＢＯＤの環境基準　ＡＡ類型　１mg/Ｌ以下、　Ａ類型　２mg/Ｌ以下】







コラム

３．「最上川」をより良い姿で後世に伝え残そう
～～～舟で対岸に渡って清掃活動　モモカミ・ゴミバスターズ大作戦～～～



最上峡のイメージ
（戸沢村古口付近の最上峡）

江戸時代に最上川の上流から河口まで航路が開かれると、最上川は主要な輸送路となり、舟運が発達しました。現在では陸上交通機関が発達しましたが、観光舟下りがその面影を残しています。中でも、最上川が出羽山地を横断する山形県最上郡戸沢村古口から東田川郡庄内町清川までの約１６ｋｍ区間の狭窄部「最上峡」での観光舟下りは、県立自然公園に指定されている最上川随一の景勝地の景観を楽しむ、人気の観光スポットとなっています。

その最上峡の一角で、「モモカミ・ゴミバスターズ大作戦」という河川清掃活動が毎年開催されています。ちなみにモモカミとは、アイヌ語で崖の意味がある「モモ」と、盆地の意味がある「カミ」を組み合わせて名付けられた造語で、山形県の「最上地方」という響きを持たせています。

名称に地域への愛称の意味が込められた「モモカミ・ゴミバスターズ大作戦」は、最上川中流部に堆積するゴミを回収・処分し、山形県の母なる川「最上川」をきれいな姿で後世に伝えるための河川清掃活動です。平成４年に第１回の大作戦が行われ、平成１６年度までは春と秋年２回実施していましたが、活動の成果もあり年々ゴミの量も減少し、平成１７年度からは年１回の実施となりました。令和元年は、メイン会場周辺において工事が行われていたことと、付近に代替地を確保出来なかったため、残念ながら休止となりましたが、ここでは、この大作戦の活動についてご紹介します。

実施時期は５月下旬から６月上旬頃のある一日です。参加者は、近年では２５０名程度となっており、実行委員長である戸沢村長を先頭に村、村議会、村内地区会長会役員、村内小中学校、村内の最上川沿い１０地区住民、舟下り観光船会社等、漁協、企業ボランティア、国、県等が参加者する行事となっています。

この河川清掃活動は、最上川の左岸側にあるメイン会場から、普段は舟下りに使われている舟で対岸に渡り清掃活動を行い、回収したゴミもまた舟に乗せて戻り、メイン会場に運び分別を行って、ダンプトラック等に積んで運び出します。回収されるゴミの量は、年にもよりますが３００ｋｇから５００ｋｇ程にもなり、トラックに一杯になったゴミを見るとその量の多



メイン会場とその周辺



開会式



乗船の様子。これから対岸へ出発。



清掃場所付近からの最上峡の眺め



清掃活動の様子

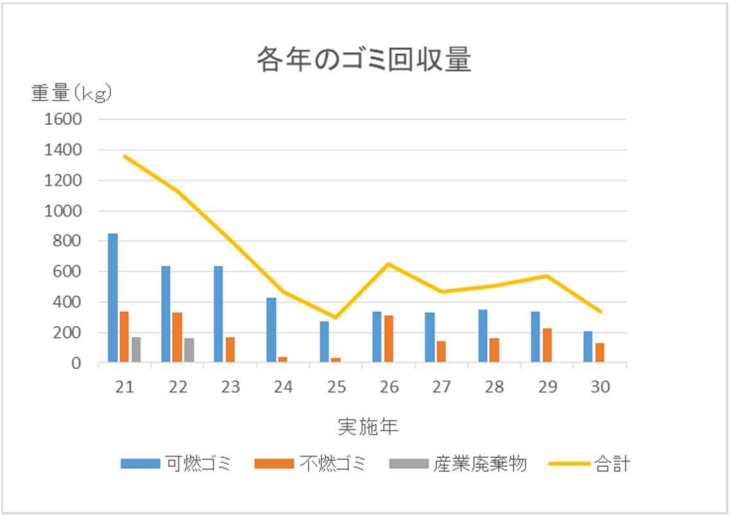
コラム

さに驚かされました。河川清掃活動中には、観光客を乗せた遊覧船が最上川を行き来することもあります。また、最上川と並行して走っている国道４７号線からは最上川がやや下方に見える区間も多くあります。「モモカミ・ゴミバスターズ大作戦」は、地域の最上川をきれいにすることで、観光資源でもある最上川の魅力を観光客に発信するとともに、美しい最上川を将来に引き継いでいく、地元に根ざした活動となっております。

活動終了時はちょうどお昼時となることから、参加者は各自昼食用のおにぎりを持参し、村で振る舞う旬の「竹の子汁」と一緒に頂きます。「モモカミ・ゴミバスターズ大作戦」終了後に食べる「竹の子汁」は、この大作戦ならではの楽しみとなっています。



清掃活動の様子







トラックに積み込まれたゴミ






回収したゴミ



トラックに積み込んで、記念撮影

参考資料

河川の水質現況（BOD）と環境基準の満足状況

水系名	河川名	地点名	令和元年			
			環境基準（類型）	年間平均値（mg/L）	75%値（mg/L）	環境基準満足状況
阿武隈川	阿武隈川	阿久津	B	1.4	1.4	○
阿武隈川	阿武隈川	丸森	B	2.2	3.2	
阿武隈川	阿武隈川	岩沼	A	1.5	1.7	○
阿武隈川	阿武隈川	高田橋	B	2.5	3.0	○
阿武隈川	阿武隈川	黒岩	B	1.8	1.8	○
阿武隈川	阿武隈川	須賀川	B	1.2	1.3	○
阿武隈川	阿武隈川	伏黒	B	1.6	2.0	○
阿武隈川	広瀬川	舟場	B	1.1	1.2	○
阿武隈川	荒川	荒川橋	A	<0.5	<0.5	○
阿武隈川	荒川	信夫橋	A	0.5	<0.5	○
阿武隈川	釈迦堂川	下宿	B	1.2	1.5	○
阿武隈川	摺上川	摺上川ダム	A	0.6	0.7	○
阿武隈川	大滝根川	三春ダム	A	1.2	1.6	○
名取川	広瀬川	三橋	B	0.7	0.9	○
名取川	前川	北向橋	AA	0.5	0.6	○
名取川	太郎川	いもくぼ橋	AA	0.6	0.5	○
名取川	北川	北川橋	AA	0.6	0.6	○
名取川	名取川	名取橋	B	0.8	0.9	○
名取川	名取川	閖上大橋	B	0.7	0.6	○
名取川	笊川	名取川合流前	C	0.9	1.0	○
鳴瀬川	吉田川	鹿島台	B	1.4	1.8	○
鳴瀬川	吉田川	落合	B	1.2	1.4	○
鳴瀬川	善川	善川橋	B	1.2	1.9	○
鳴瀬川	鳴瀬川	下中ノ目	A	0.8	1.0	○
鳴瀬川	鳴瀬川	三本木	A	1.1	1.6	○
鳴瀬川	鳴瀬川	小野	B	1.1	1.1	○
鳴瀬川	鳴瀬川	南郷	A	0.9	1.0	○
北上川	猿ヶ石川	安野橋	A	1.2	1.3	○
北上川	猿ヶ石川	落合橋	A	0.6	0.6	○
北上川	猿ヶ石川	谷内	A	0.8	0.8	○
北上川	旧北上川	鹿又	B	0.8	0.9	○
北上川	旧北上川	門脇	B	0.8	1.0	○
北上川	旧北上川	和渕	A	0.9	1.0	○
北上川	江合川	荒雄	B	0.9	1.1	○
北上川	江合川	轟	AA	0.5	0.5	○
北上川	江合川	大深沢	AA	0.6	<0.5	○
北上川	江合川	短台	B	1.0	1.2	○
北上川	砂鉄川	門崎橋	A	0.7	0.7	○
北上川	雫石川	東北本線鉄橋	A	0.7	0.8	○
北上川	雫石川	御所ダム下流	A	0.6	0.7	○
北上川	雫石川	春木場	A	0.5	0.5	○
北上川	葛根田川	葛根田	A	0.6	0.6	○
北上川	南川	南川	A	0.6	0.5	○
北上川	小鬼ヶ瀬川	天子森	未	0.6	0.8	－
北上川	小友川	小友橋	A	0.5	0.5	○
北上川	前川（北上川水系）	前川	AA	<0.5	<0.5	○
北上川	胆沢川	下嵐江	AA	0.5	<0.5	○
北上川	胆沢川	再巡橋	A	1.0	1.1	○
北上川	胆沢川	胆沢ダム貯水池	A	0.6	0.7	○
北上川	中津川	御厩橋	A	0.7	0.8	○
北上川	磐井川	狐禅寺橋	C	1.1	1.0	○
北上川	磐井川	上の橋	A	0.8	1.0	○
北上川	北上川	金ヶ崎橋	A	1.2	1.4	○
北上川	北上川	狐禅寺	A	1.2	1.3	○
北上川	北上川	珊瑚橋	A	1.3	1.5	○
北上川	北上川	四十四田橋(2)	A	0.9	1.0	○
北上川	北上川	紫波橋	A	1.4	1.7	○
北上川	北上川	昭和橋	A	1..3	1.3	○
北上川	北上川	船田橋(2)	A	0.8	0.8	○
北上川	北上川	大泉	A	0.9	0.9	○
北上川	北上川	朝日橋	A	1.3	1.4	○
北上川	北上川	登米	A	0.8	0.9	○
北上川	北上川	藤橋	A	1.3	1.5	○
北上川	北上川	南大橋	A	0.9	1.0	○
北上川	北上川	飯野川	A	0.8	1.0	○
北上川	北上川	飯野川橋	A	0.7	0.7	○
北上川	北上川	北上川橋	A	1.1	1.2	○
北上川	北上川	北上大橋	A	1.1	1.1	○
北上川	和賀川	九年橋	A	1.0	1.1	○
北上川	和賀川	山室橋	AA	0.6	0.6	○
北上川	和賀川	切留	AA	0.7	0.7	○

水系名	河川名	地点名	令和元年			
			環境基準（類型）	年間平均値（mg/L）	75%値（mg/L）	環境基準満足状況
馬淵川	馬淵川	櫛引橋	A	0.8	1.0	○
馬淵川	馬淵川	尻内橋	B	1.0	1.2	○
馬淵川	馬淵川	大橋	B	1.2	1.4	○
岩木川	岩木川	安東橋	A	0.6	0.6	○
岩木川	岩木川	乾橋	A	2.0	2.3	
岩木川	岩木川	三好橋	A	1.6	1.7	○
岩木川	岩木川	山田川河口	B	2.4	2.6	○
岩木川	岩木川	十三湖大橋	B	1.4	1.9	○
岩木川	岩木川	十三湖中央	B	1.3	1.6	○
岩木川	岩木川	上岩木橋	A	0.7	0.9	○
岩木川	岩木川	神田橋	A	1.4	1.6	○
岩木川	岩木川	鳥谷川河口	B	1.1	1.3	○
岩木川	岩木川	津軽大橋	B	1.5	1.7	○
岩木川	岩木川	鶴寿橋	A	2.2	3.1	
岩木川	岩木川	幡龍橋	A	1.3	2.0	○
岩木川	浅瀬石川	朝日橋	A	0.8	0.8	○
岩木川	平川	平川橋	A	0.8	1.0	○
岩木川	平川	豊平橋	A	0.8	0.8	○
米代川	小又川	森吉山ダム	未	0.8	1.0	－
米代川	米代川	十二所	B	0.8	1.1	○
米代川	米代川	新真中橋（真中橋）	B	0.7	0.8	○
米代川	米代川	鷹巣	B	0.9	1.0	○
米代川	米代川	二ツ井	B	0.8	0.9	○
米代川	米代川	能代	B	0.8	1.0	○
雄物川	横手川	藤木上橋	B	1.1	1.3	○
雄物川	皆瀬川	岩崎橋	A	0.6	0.6	○
雄物川	玉川	玉川ダム	AA	0.5	<0.5	○
雄物川	玉川	玉川橋	A	0.6	0.7	○
雄物川	玉川	長野	A	0.6	0.6	○
雄物川	成瀬川	真人橋	AA	0.6	0.7	○
雄物川	雄物川	岳見橋	A	0.7	0.8	○
雄物川	雄物川	酒蒔橋	A	0.5	0.5	○
雄物川	雄物川	大曲橋	A	0.9	1.0	○
雄物川	雄物川	椿川	A	0.8	0.8	○
雄物川	雄物川	雄物川橋	A	0.7	0.8	○
子吉川	子吉川	宮内	A	0.7	0.8	○
子吉川	子吉川	本荘大橋	B	0.6	0.6	○
最上川	寒河江川	中村	AA	0.6	0.7	○
最上川	最上川	碁点橋	A	0.9	1.1	○
最上川	最上川	谷地橋	A	0.7	0.8	○
最上川	最上川	糠野目	A	1.0	1.2	○
最上川	最上川	高屋	A	0.6	0.7	○
最上川	最上川	砂越	A	0.7	0.7	○
最上川	最上川	長井橋	A	0.9	1.0	○
最上川	最上川	堀内	A	0.8	0.9	○
最上川	最上川	両羽橋	A	0.7	0.6	○
最上川	鮭川	戸沢橋	A	0.5	<0.5	○
最上川	鮭川	八千代橋	AA	0.5	<0.5	○
最上川	須川	落合橋	B	1.1	1.3	○
最上川	相沢川	宝永橋	A	0.6	0.6	○
最上川	村山野川	舟戸橋	A	0.9	1.2	○
最上川	丹生川	丹生川大橋	A	0.6	0.6	○
最上川	置賜白川	白川ダム	A	0.7	0.9	○
最上川	置賜野川	長井ダム	A	0.6	0.5	○
最上川	立谷沢川	東雲橋	A	<0.5	<0.5	○
赤川	赤川	蛾眉橋（横山）	A	0.6	0.7	○
赤川	赤川	新川橋（浜中）	A	0.7	0.8	○
赤川	赤川	東橋	A	0.5	<0.5	○
赤川	梵字川	月山ダム	A	0.5	<0.5	○

河川の水質現況（COD）と環境基準の満足状況

水系名	河川名	地点名	令和元年			
			環境基準（類型）	年間平均値（mg/L）	75%値（mg/L）	環境基準満足状況
阿武隈川	白石川	七ヶ宿ダム	A	2.1	2.4	○
名取川	碁石川	釜房ダム	AA	2.6	3.0	
北上川	猿ヶ石川	田瀬ダム貯水池	A	2.8	3.5	
北上川	江合川	鳴子ダム	AA	1.9	2.1	
北上川	雫石川	御所ダム貯水池	A	1.7	2.0	○
北上川	北上川	四十四田ダム貯水池	A	2.1	2.2	○
北上川	和賀川	湯田ダム貯水池	A	2.0	2.2	○
高瀬川	高瀬川	河口	A	3.9	4.4	
高瀬川	高瀬川	高瀬橋	A	3.7	3.9	
高瀬川	高瀬川	小川原湖(No.A)	A	4.0	4.3	
高瀬川	高瀬川	小川原湖(No.C)	A	3.7	4.0	
高瀬川	高瀬川	小川原湖(No.G)	A	11.3	16.0	
高瀬川	高瀬川	小川原湖(No.H)	A	3.7	3.9	
岩木川	浅瀬石川	浅瀬石川ダム	A	2.5	2.5	○
最上川	寒河江川	寒河江ダム	A	2.1	2.4	○

●河川における類型別環境基準（ＢＯＤ７５％値）

AA 類型：１ｍｇ／Ｌ以下

A 類型：2ｍｇ／Ｌ以下

B 類型：3ｍｇ／Ｌ以下

C 類型：5ｍｇ／Ｌ以下

D 類型：8ｍｇ／Ｌ以下

E 類型：10ｍｇ／Ｌ以下

●湖沼における類型別環境基準（ＣＯＤ７５％値）

AA 類型：１ｍｇ／Ｌ以下

A 類型：3ｍｇ／Ｌ以下

B 類型：5ｍｇ／Ｌ以下

C 類型：8ｍｇ／Ｌ以下

令和元年東北地方一級河川の水質現況　概要パンフレット

Recent condition of water quality of class A river in Tohoku

http://www.thr.mlit.go.jp/

国土交通省 東北地方整備局

河川部 河川環境課

〒980-8602

仙台市青葉区本町 3-3-1　仙台合同庁舎Ｂ棟

Tel. 022-225-2171（代表）

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism Tohoku Regional Bureau